

卯の花 (賑民寿万歳)

卯の花の雪で兔を作るなら

目にはほどよき花落の

茄子の走りに浪越えて

高値はまけぬ初松魚

釈迦の誕生ゆびさせど

天にも

地にもたゞ一本

一杯飲んだ酒きげんまだあと舟や

日和下駄

来るか と川岸へ出て見れば

船は屋根船佃ふし オット危ねえ

長箱の

先へ二上りさんばしや

是非に御見と書く文は

筆の鞘町か

西川岸か

うまい仲町中空に

てっぺんかけたと鳴いて行く

時鳥過ぎて雨

晴れて千種の花の露しげみ

なほ光添ふ秋の夜の

月の影さへ隅田川

いざ言問はん都鳥あれの枯野と向島

たが庵崎か琴の音も

この頃遠し冬籠り

ふりの日脚も節季候の

さっさとござれ年の暮

一ト夜明くればおのずから

のどけき春の朝ぼらけ

梅に来て鳴く鶯に

初音ゆづりて才若が千代の小鼓おつとりて

万々歳と祝ふ寿久しけれ。